

6. 特発性精子形成障害に対する漢方療法が 精子頭部の空胞形成に与える影響について

富山大学大学院医学薬学研究部 腎泌尿器科学

○小宮 顕、渡部 明彦、川内 葉子、布施 秀樹

【目的】特発性精子形成障害症例に対して、漢方薬を投与し、精液所見および精子頭部の空胞形成への影響を検討した。

【対象と方法】2010年1月から2012年2月までに漢方薬による治療を行った特発性精子形成障害症例24例を対象とした。症例の平均年齢は34歳、女性パートナーの平均年齢は33歳、不妊の期間は平均34.4ヶ月であった。精巢体積は、左が平均18.9mL (12.0-26.0)、右が18.1mL (9.0-26.0)であった。血清LH、FSH、テストステロン濃度は、それぞれ平均4.9mIU/mL (2.8-14.4)、8.1mIU/mL (2.3-18.2)、4.6ng/mL (2.6-6.6)であった。精液はパーコール2層法を用いて洗浄し、精子頭部を微分干渉法を用いた高倍率顕微鏡にて観察した。精子頭部の幅の50%以上の径の空胞を大きな空胞(LNV)とし、精子のうちLNVを持つものの割合を算出した(%LNV)。

【結果】実証の14例および虚症の10例に対しそれぞれ柴胡加竜骨牡蛎湯7.5g分3、補中益気湯7.5g分3を3ヶ月投与した。治療前後の精液検査におけるパラメータの変化(平均値)は、精液量2.7→2.7mL (n.s., T検定)、精子濃度は、 $29.6 \times 10^6/\text{mL} \rightarrow 39.9 \times 10^6/\text{mL}$ (n.s.)、精子運動率は13.2%→19.8% ($p=0.0419$)、精子正常形態率は6.4%→5.6% (n.s.)と運動率が有意に改善した。治療前後での%LNVの変化は、運動精子において、27.2%→17.6% ($p<0.01$, χ^2 検定)、不動精子においても34.2%→27.6% ($p<0.01$)と有意に改善した。

【結語】特発性精子形成障害に対する漢方療法において、精液所見の改善に加えて、精子頭部の空胞形成の有意な改善を認めた。精子頭部の空胞形成は、精子の質および漢方療法の治療効果判定の新たな基準となりうることが示唆された。